

「だれもが」「安心して」「豊かに」学ぶために 授業こそ児童・生徒指導

横浜プログラムの考え方を取り入れた授業のススメ

Y-P の考え方を取り入れた授業での ...

子どもの育ち



自分の話を最後まで聞いてもらう経験を重ねると、表情豊かに話すようになった。

学習でわからないところを質問するようになった。

友だちとの関わりが少なかった子どもが、まわりの友だちを受け入れ、関わるようになった。

学習のねらいや流れを示すと、落ち着いて学習する子どもが増えた。

友だちの話を最後まで聞いて、取り入れられるようになった。

教師の育ち



子どもには「友だちに認められる場」が必要だ。そういうグループで話し合うと、あたたかさを実感できるよ。

友だちの話を聞くとときも約束を決めると、話をする子どもの安心につながるんだ。

子どもの実態に合わない、高い「めあて」や活動は、子どもの自己評価を低下させてしまう。

社会的スキルを意識して授業を見合うと、子どもについて語りあえる教師集団になるんだね。

できて当たり前だと思っていたことも、声をかけて認めるといいんだな。

子どもが自信をもって発言するためには、聞いている子どもたちの態度が大切だ。

教科等のねらいを達成しながら あたたかな学級風土を育てる

学習の流れが書いてあると、次にやるのがよくわかる。



友だちが最後まで話を聞いてくれるからうれしい。

今日の勉強
これなら自分にもできそうだ。

うまく話せないところがあっても
友だちが助けてくれるから安心だ。

自分の考えがみんなの
役に立ってうれしい！

あたたかな学級風土では、子どもたちが自分の考えを伝えあい、
学びあい、互いに認めあえる場が生まれます。

横浜プログラム (Y-P) とは

横浜プログラムは、子どもがコミュニケーション能力や人間関係を築く力を育むために開発されました。学級アセスメントから、子どもに身に付けさせたい力を明確にし、ねらいとします。

横浜プログラムでは、子ども一人ひとりが安心して参加できるよう「ねらい」「流れ」「ルール」をあらかじめ示します。また、一人ひとりの活動の場を保障し、友だちと関わりながら活動できるよう、「個人」→「グループ」→「全体」へと進めていきます。このようなねらいと活動を通して、「あたたかな学級風土」が創られます。

日々の授業に「横浜プログラムのねらいや進め方」を取り入れると、教科等のねらいを達成しながら、互いに認め合う「あたたかな学級風土」が育ちます。

横浜プログラム (Y-P) の基本的な進め方

子どもの安心・安全が保証された場

アイスブレイキング
(話しやすい雰囲気をつくる)

ねらいの明確化
流れの明確化
ルールの明確化※

3つの
明確化

個人での作業・思考

グループ内での共有化
(意見を伝える・話を聴く)

集団での意思決定
(仲間と一緒に考える・話し合う)

ふり返り (まとめ)

※ 3つの基本ルールの遵守

- ・暴力NO (嫌なことを言わない・されない)
- ・パスOK (参加を強制しない・されない)
- ・持ち出し禁止 (人がいやがること、傷つくこと)

横浜プログラム (Y-P) の授業への応用

だれもが安心して参加でき、わかりやすい授業

授業の入口
(教科のねらい、学級風土づくりのねらい)

授業の中での学びの深まり

- ・自分(個人)で
- ・グループで
- ・クラス(集団)で

授業の出口
(まとめとふり返り)

「3つの基本ルールの遵守」は忘れずに!

I'm OK!
You are OK!
We are OK!
あたたかな学級風土を
育てたいな。

教科と児童・生徒指導を重ねる授業

教科のアプローチ

授業

入口

(たとえば5分)

- 教科のめあて、学級風土づくりのめあてを知る
- 提示された授業の流れを見て、やること分かる
- 「3つの基本ルール」を確認する

(あたたかな学級風土をつくらうとする教師のつづやきが入ります)



学びの深まり

(たとえば35分)

自分(個人)で

- 自分で考え、学習に取り組む

一人ひとりが学習に参加している喜びを味わえるといいな。分からない子にも、細かく助言しよう。

グループで

- 自分の考えを友だちに聞いてもらう
- 友だちの話を最後まで聞く
- 互いの考えを認め合う

基本ルールや約束を大切に話し合わせよう。あたたかな認め合いが出来るといいな。

クラス(集団)で

- 発表したり、話し合ったりして考えを深める

みんなで考えてよかったと実感できる話し合いにしたいな。

Y-P による児童・生徒指導のアプローチ

出口

(たとえば5分)

- 学んだことをまとめる
- 学級風土づくりのめあてに向けた活動をふり返る

友だちと協力したから楽しく勉強ができた、と気づくよう助言しよう。この気づきを次の授業へ生かそう。



算数

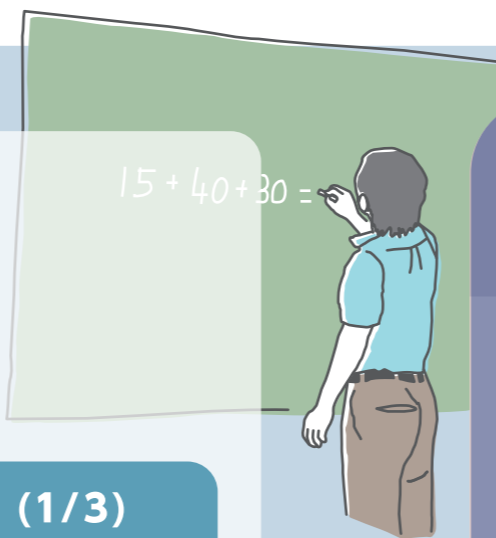
授業例：小学校2年 算数

算数「計算のしかたをくふうしよう」(1/3)
「3つの数の計算」

問題：まきさんは、15円の あめと 40円の けしゴムを買いました。
えんぴつを 買いわすれて 店に もどり、30円のえんぴつを 買いました。
ぜんぶで、いくら つかいましたか。

教科のねらい

- 3つの数の計算の仕方を考え、説明することができる
- 括弧（ ）の使い方を理解することができる



横浜プログラムの考え方を取り入れた
算数の授業例

入口

- 本時の問題と学習の進め方を確認する
※学習の進め方は掲示物で示す
- 計算の仕方を考え、その考えを説明できる
- 友だちの話を最後まで聞くことができる

学級風土づくりのために

本時は、友だちの話を最後まで聴くと、安心して話ができるようになる、と実感させたい。子どもがめあてをイメージできるように、前時のふり返りを紹介しよう。

学びの深まり

自分(個人)で

- 自分で問題を解く

グループで

- 計算の答えを確認し、1人ずつ順に、考えた計算の仕方を発表する
- 同じところや違うところはどこか、という観点をもって聞く

クラス(集団)で

- 出された解き方を見比べ、「計算の工夫」「()の使い方」「()を使った式の意味」について話し合う
- 取り上げた式を見比べ、よさ(簡潔、明瞭、的確等)や共通点・相違点等を話し合う

自力解決が難しい子には、お話の順番にまず、2つの数を計算してみるように助言しよう。

「友だちの発表を最後まで聴く」という約束を伝え、安心して話ができる雰囲気づくりをしよう。ルールを守り、あたたかい雰囲気ですべてのグループに声をかけて、ほめよう。

一人ひとりの意見が、大切なまもめにつながったことを伝えよう。

出口

- ()を用いることによって計算の順序が分かることや、たし算では計算の順序を変えても答えが同じになることをまとめる
- いろいろな考え方を発表し、認め合うと、理解が深まるとふり返る

「Aさんのやり方をまねした」とか「Bさんの考えは分かりやすかった」等のふり返りを紹介しよう。それを聞いたAさんやBさんの感想も聞いてみよう。

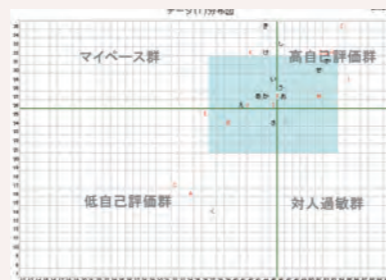
Y-P

横浜プログラムのアセスメント(Y-Pアセスメント)

※ Y-Pアセスメント観点表・YPZuzieの画面より



仲間づくりシート



学校生活についてのアンケート 分布図

アセスメントから見いだした学級風土

友だちの言動に攻撃的に反応してしまう子どもが数人いて、発言しにくい雰囲気がある。仲間の話をしっかり聴く力をつけて、安心して話ができる場にしよう。

学級風土づくりのねらい

- アプローチ：仲間づくり | 観点：配慮 | スキル：⑩しっかり話を聴く

図工

授業例：小学校3-4年 図画工作科 B鑑賞

「心にビビッと! Let's アートカードゲーム」(2/2)

概要：「アートカード」とは、作品をはがきサイズにしたカードである。グループごとに子どもの手元に置き、鑑賞する。アートカードにつける題名を考え、作品のよさや面白さを感じ取ることを楽しむ。

教科のねらい

- 形や色、組み合わせなどに着目しながら、感じたことや思ったことを話し合う活動を通して、身近にある作品のよさや面白さを感じ取ることを楽しむ



横浜プログラムの考え方を取り入れた
図工の授業例

入口

- 作者が、アートカードにつけた題名をヒントに、本時の学習のイメージをつかむ
- 本時の学習課題と進め方を確認する

学級風土づくりのために
自分の見方や感じ方を大切にしたいな。
お互いのよさをあたたかく認め合う姿勢を大切にしよう。

学びの深まり

自分(個人)で

- クラスで共通の一枚の絵に、心にビビッときた題名をつけ、その理由を考える
- 形や色、組み合わせなど表し方に着目して、自分の考えをまとめる

グループで

- 自分のつけた題名とその理由を発表する

クラス(集団)で

- グループで話し合ったことをクラス全体に報告する
- 他のグループの意見をもとに、感じたこと、考えたことをクラス全体で伝え合い、考えを深める

題名づくりにとまどっている子には、「どんな気持ちかな」「どんなことをしているのかな」など、声をかけよう。

同じ絵でも、一人ひとりの感じ方が多様であることを認めあうのを大事にしよう。

それぞれのよいところを発見できるように、声をかけよう。

出口

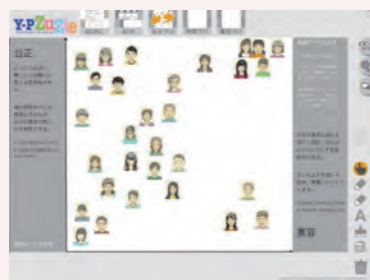
- 作品のよさについて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができたかどうかを振り返る

それぞれの見方や考え方が違うことを認め合えるのは素晴らしい。それは、一人ひとりを大切にしていこうとつながると伝えよう。

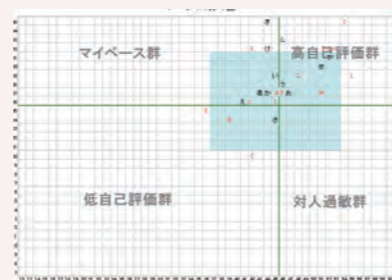
Y-P

横浜プログラムのアセスメント(Y-Pアセスメント)

※ YPアセスメント観点表・YPZuzieの画面より



自分づくりシート



学校生活についてのアンケート 分布図

アセスメントから見いだした学級風土

自分の考えや意見を率直に発言できる子どもが多い。しかし、その主張は時として独りよがりになりがちである。それぞれの意見をあたたかく認めあえるようになってほしいと考えている。

学級風土づくりのねらい

- アプローチ：自分づくり | 観点：寛容 | スキル：③自他のよさを見いだす

音楽

授業例：中学校2年 音楽



「音楽の特徴を理解し、味わって聞こう」(2/3)

概要：ムソルグスキー作曲の「展覧会の絵」は、10枚の絵の印象を基に作曲された組曲である。ここでは、音楽を形づくっている要素や、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取って聴く活動に重点を置く。

教科のねらい

- 「展覧会の絵」の各曲の特徴をとらえて鑑賞し、聴き合いながら自分の言葉で楽曲を紹介する



横浜プログラムの考え方を取り入れた
音楽の授業例

入口

- 「展覧会の絵」の各曲を鑑賞し、前時に感じたイメージをふり返る
- 本時の学習課題と進め方を確認する
- 友だちの意見のいいところを取り入れることができる

学級風土づくりのために

グループで紹介文をつくる時に、友だちの意見を否定せず、いいところを取り入れるように伝えよう。

学びの深まり

自分(個人)で

- グループで決めた1曲について、鑑賞しながら曲の特徴としてふさわしい言葉をカードで選択し、選んだ理由についてワークシートに書く

グループで

- 個人が選んだ言葉をグループで発表し、ほかの言葉を加えて曲の紹介文を作る

クラス(集団)で

- グループで考えた紹介文を代表者が発表する
- どんな違いがあるのかを比較する

音楽の用語については、確認できるようにカードにしておき、困らないようにしましょう。

一人ひとりが選んだ言葉を生かして、紹介文がつけるといいな。どの子どもも安心して話せるように、グループ討議の約束を確認しよう。

グループ一人ひとりの意見を生かしてつくった紹介文については、互いの意見を取り入れているよさをほめよう。

出口

- 「展覧会の絵」全体のよさや特徴を感じながら、感想をまとめる
- 互いの考えを生かし合って、作り出すよさについて、ふり返る

意見の違いを認めながら、よい部分を取り入れると、よりよいものが出来ると伝えよう。学習だけでなく、行事などでもこういった経験をできるようにしたいな。

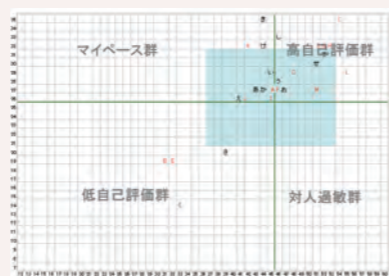
Y-P

横浜プログラムのアセスメント(Y-Pアセスメント)

※ YPアセスメント観点表・YPZuzieの画面より



集団づくりシート



学校生活についてのアンケート 分布図

アセスメントから見いだした学級風土

自分の考えをもっている子どもは多いが、一人よがりになってしまう傾向がある。意見を聴き合い、よい部分を取り入れながら高め合っていけるようにしたい。

学級風土づくりのねらい

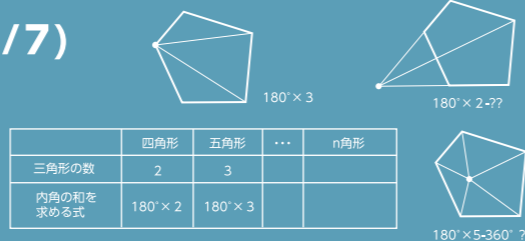
- アプローチ：集団づくり | 観点：合意形成 | スキル：●@互いの感情や意見の違いを認めながら調整しようとする

数学

授業例：中学校2年 数学科 B 図形

「多角形の角の和」(2/7)

問題：前時に、様々な多角形についてすべての角の和を求めた。前時の方法を表にまとめ、五角形、六角形、・・・n角形の角の和を求める式をつくりなさい。



教科のねらい

- 三角形の内角の和が 180° であることをもとにして、多角形の内角の和を求める式を導く

横浜プログラムの考え方を取り入れた
数学の授業例

入口

- 前時に求めた様々な多角形の角の和について振り返る
- 本時の問題と学習の進め方を確認する
※学習の進め方は掲示物で示す

学級風土づくりのために

自分の考えをはっきりと伝える力を伸ばしたい。そのためには、まわりがしっかり聴くことが大事だと伝えよう。

学びの深まり

自分(個人)で

- 前時に内角の和を求めた方法を表に整理し、n角形の角の和を求める式をつくる

グループで

- 自分が見つけた法則性をもとに、n角形の角の和を求める式を伝え合い、自分で一番よいと思う方法を見つける

クラス(集団)で

- グループから出されたn角形の内角の和の求め方について話し合い、より簡潔な式を求める

自分の考えを言葉や式で順序立てて表現できるように支援しよう。

意見を交換して、理解が深まっているグループを認め、声をかけよう。

みんなの意見をもち寄りの中で、よりよい意見が導き出されたプロセスを評価しよう。

出口

- 多角形の内角の和を求める式を確認する
- 自分の考えを伝え、相手の考えを聞くと、認め合う関係ができることを振り返る

意見を出し合うと学びが高まることを確認しよう。

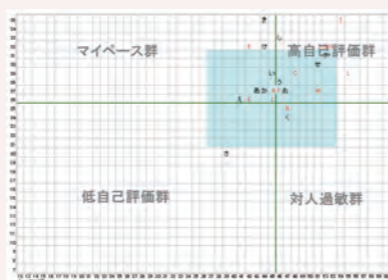
Y-P

横浜プログラムのアセスメント(Y-Pアセスメント)

※ YPアセスメント観点表・YPZuzieの画面より



仲間づくりシート



学校生活についてのアンケート 分布図

アセスメントから見いだした学級風土

みんなと同じ意見であることに安心しがちで、人と違う意見を言わない傾向がある。自分の考えをはっきり伝える力を伸ばしたい。

学級風土づくりのねらい

- アプローチ：仲間づくり | 観点：自己表現 | スキル：⑤ははっきり伝える